演題番号：C5

胸水貯留を認めたミーアキャットにおける抗酸菌症の一例

○濱本健三

市田動物病院

1. はじめに：ミーアキャット（学名：suricata suricatta）は南アフリカ固有の肉食動物であり、飼育下のミーアキャットの死亡原因に関連する疾患についてはほとんどわかっていないのが現状である。今回、胸水貯留を繰り返す症例に対し、約９カ月間治療を行うが改善せず、剖検にて抗酸菌症と診断したためその概要を報告する。

2. 材料および方法：症例は3歳6ヵ月齢のミーアキャット、去勢オス。下痢と嘔吐、呼吸促拍を主訴で来院されました。血液検査および画像検査を実施。血液検査では白血球の上昇、画像検査では胸水貯留が認められた。胸水は滲出液で、変性の少ない好中球やマクロファージを主体とした炎症性細胞が採取され、細菌培養検査は陰性であった。肺炎と診断し、内服にて治療を行い、約半年間は３か月に１度のペースで胸水抜去を行い、小康状態を維持していた。その後悪化し、最終的には２週に１度のペースで臨床症状を呈するほどの胸水貯留が認められ、第270病日呼吸不全により死亡した。剖検を実施し、病理組織学的検査を行った。

3. 結　果：病理組織学的検査にて、多組織／多臓器で強い肉芽腫性炎症が形成されていました。肉芽腫病変の原因精査のため特殊染色を行ったところ、心外膜やリンパ節における炎症巣内において、チールネルゼン染色で赤色に染まる菌体が中等数認められた。

4. 考　察：抗酸菌症は人獣共通感染症であるため重要な疾患である。ミーアキャットによる抗酸菌症は、リンパまたは血行性を介し感染が広がり、さまざまな臓器に影響を及ぼす全身疾患である。肉芽腫は通常、肺、脾臓、肝臓、縦郭および顎下リンパ節にみられると考えられている。また、最も一般的な臨床症状は、顎下リンパの腫大、無気力、衰弱、呼吸困難、などが報告されている。ミーアキャットの抗酸菌症は過去M.tuberuculosis、M.bovisによるものとされていましたが、最近の報告では病因はM.suricattaeという結核菌群（MTC）に新しく属するものによると考えられている。

今回、病理組織学的検査結果より、抗酸菌の感染により心臓における炎症反応は強く、心筋の変性壊死を陥った。それにより心機能低下に陥り胸水貯留の要因になり、最終的な死因になったと考えられた。飼育下のミーアキャットの死亡に関連する疾患はほとんどわかっておらず、ミーアキャットにおける胸水貯留の症例に対し、抗酸菌症を鑑別に加えることは重要であると考えられた。